北海道地学協働アワード 2023　ＦＡＱ

令和５年９月８日作成
生涯学習推進局社会教育課

Ｑ１　「地学協働体制の構築」とは、どのようなことを指しますか。
Ａ１　幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で生徒の学びを支えることや、地域の未来を担う人材の育成、地域住民のつながりを深めることなど、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う地学協働のための体制の構築のことを指しています。具体的には、校内体制の整備、コミュニティ・スクールの導入、コンソーシアムの設置等があります。

Ｑ２　他の表彰と何が違うのですか。
Ａ２　表彰には、活動やその功績等の結果をたたえるものがありますが、本アワードについては、地学協働体制の構築を重点とし、学習活動によって学校、生徒、地域にもたらした変容や、学校教育目標、スクールミッションの達成度などを評価します。そのため、優れた商品開発などの活動やプレゼンテーション能力というよりも、活動のプロセスに主眼をおき、「どのように地学協働体制を構築しているのか（または、しようとしているのか）」「どのように活動を持続している（または、持続可能なものになっているか）」等に重点をおいて評価するところが特徴です。

Ｑ３　表彰の規準は「地学協働体制を構築している学校」となっていますが、コミュニティ・スクールを導入していないとエントリーできないのでしょうか。
Ａ３　できます。コミュニティ・スクールを導入していなくてもエントリーが可能ですので、積極的にエントリーしてください。

Ｑ４　「地学協働体制の構築」については、ハードルが高いと感じていますが、エントリーしても大丈夫でしょうか。
Ａ４　本アワードでは、学校と地域の協働体制の構築について審査しますが、地域の特色を活かしたユニークな取組等を表彰する「特別賞」もありますので、現段階において優れた地学協働体制を構築していなくても、入賞できる可能性があり、今後の地学協働活動をさらによりよいものにするためにも多くの学校にエントリーしていただきたいと考えています。

Ｑ５　審査の観点等において、「幅広い分野で活躍している地域住民」とは、どのような方のことですか。
Ａ５　地域の経済や産業、福祉、教育などの幅広い分野で活躍している多くの地域住民のことを指しています。

Ｑ６　教育課程外の取組でも、エントリーすることは可能でしょうか。
Ａ６　可能です。表彰については、「地域と連携・協働体制を構築し、地域課題の解決のために生徒が多様な学習活動に取り組んでいる学校」に対して行うものですので、地域と学校が関わっている活動であれば対象となります。

Ｑ７　入賞しなかったとしてもエントリーしたことによるメリットはありますか。
Ａ７　エントリーいただいた全ての学校を対象として、多くの審査員による評価を行い、フィードバックコメントをお送りします。また、道教委ホームページや広報誌「地学協働」に全ての学校の取組を掲載し、広く全道に周知していきますので、日頃の学校教育活動のＰＲになります。

Ｑ８　予備審査の通過の可否について、事前にお知らせはありますか。
Ｑ８　２月16日（金）に実施する本審査当日に通過校を発表するため、事前のお知らせはありません。他校の取組から、学校や生徒、地域住民がともに学び合うことができるようエントリーした学校は、本審査当日まで参加されますようお願いします。

Ｑ９　予備審査に通過した後の発表については、教職員以外の発表でもよいのでしょうか。
Ａ９　学校に関わりのある地域コーディネーターなどによる発表でも構いませんが、質疑応答の中で質問が出る場合がありますので、できる限り教職員も当日の参加をお願いします。

Q10　発表当日は、生徒の都合がつかないので、エントリーすることができませんか。
A10　発表当日のスライドの説明については、後半部分の発表を生徒としている（表彰要項９（４）の表を参照）ことから、できる限り当日は生徒に発表してもらいたいと考えていますが、やむを得ない場合は、動画による発表（全スライドで６分以内）も可能としますので、事前にお申し出ください。

Q11　入賞した場合、その後の対応はどのようなものがありますか。
A11　令和５年度の入賞校については、学校の取組を各種広報誌に掲載して、周知するなど、道内各地に広くＰＲするため、関連資料や活動写真の提供を依頼する場合がありますので、御協力くださいますようお願いします。